

第368号

2019年  
11月25日

月1回25日発行

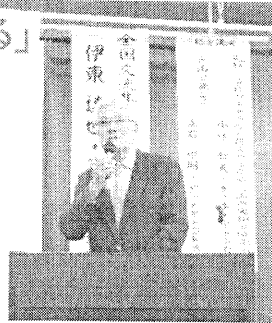
# げんぱつ

原発住民運動情報

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター  
発行人 中村敏夫/1部300円 年間3,000円  
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-11-13  
MMビルII 402  
TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578  
郵便振替 00150-7-355202  
ホームページ <http://genpatu.com/index.html>  
メール=genpatu-c@bizimo.jp

## 「火山と原発を考える」全国交流集会 in 鹿児島

### 川内原発は運転停止し、廃炉に



「発を考える」

「問題提起」をする伊東筆頭代表委員

が「鬼界・始良カルデラなど巨大カルデラ火山の実相と研究の現状」、立石雅昭・新潟大学名誉教授が「火山と原発」と題して記念講演(二面参照)を行った。

集会は、谷崎嘉治・核燃料サイクル施設立地反対連絡会議事務局長、永山尊之・「ゼロ会」代表委員を議長に選出。以下議事に入り、伊東達也・筆頭代表委員が、「福島第一原発事故の再発防止の保障がない川内原発は運転停止し、廃炉を求めるしかない」とする

「全国交流集会

「全国交流集会の発言内容と発言者」

への問題提起」を報告した。昼食を挟んで「討論 別記参照」。

- ①県内情勢と住民運動
- ②幌延深地研の現状と問題点
- ③旧東電トンブ無罪はありえない
- ④原発損害賠償群馬裁判控訴審(東京高裁)での許せない国の陳述
- ⑤住民運動の世代継承
- ⑥川内原発の火山灰の降灰量
- ⑦トリチウム汚染水問題など
- ⑧核燃サイクル施設の問題点

- 林 広員(福井)
- 米谷道保(北海道)
- 持田繁義(新潟)
- 丹治杉江(群馬)
- 井上勝博(鹿児島)
- 山本雅彦(福井)
- 和田 幸(愛媛)
- 谷崎嘉治(青森)

「『火山と原発を考える』全国交流集会 in 鹿児島」が十月二十七日、鹿児島市内の「ろうきんローンセンター」で開かれ、十六都道府県から約七十人が参加した。集会では、有馬裕子・原発ゼロをめざす鹿児島県民の会(以下「ゼロの会」)筆頭代表委員が開会あいさつ。原発をなくす全国連絡会の小田川義和さん、日本科学者会議の小栗貫・鹿児島大学法科大学院教授が来賓あいさつ。メッセージ紹介の後、小林哲夫・鹿児島大学名誉教授

- 鹿児島からのアピール(二面)
- 福井県職員109人にも金品(四面)
- あと一步に迫る核兵器禁止条約発効(五面)

らを確認した後、「鹿児島からのアピール」(二面参照)を採択して議事を終えた。最後に、次期全国交流集会開催予定地・福島県の早川篤雄氏が「閉会あいさつ」して集会の幕を閉じた。議事外の司会は井上勝博・「ゼロの会」事務局長が当たった。伊東氏は、関電の原発マネー還流事件について国会と政府の責任による徹底説明を求めた。また、事故後八年余を経過しても十万人近い被災者がふるさとに戻れない状況にも触れ、改めて国と東電が加害責任を認め、真摯に被災者・被災地対策、事故収束対策に取り組むことを求めた。さらに、福島のケースを繰り返すことなく全国的な「原発ゼロ」の実現を呼びかけた。



●「日本の原発はこのまま『消滅』へ」……これは、雑誌『選択』(十一月号)の巻頭インタビューに対する田中俊一・前原子力規制委員会委員長の答えである●関電の原発マネー還流事件を問われて、「原子力業界が姿勢を徹底的に正さなければ、日本の原子力に先はない。残念ながら原子力政策の見直しもされないままなので、この国の原発はフェードアウトする道を歩んでいると眺めている」と応じる●「日本の原子力政策は嘘だらけでここまでやってきた。結果論も含めて本当に嘘が多い。最大の問題はいまだに核燃料サイクルに拘泥していること」

「いままで『数千年のエネルギー資源が確保できる』という嘘を言い続けてきた」●田中氏の一連の発言は、まさに日本の原子力政策への的を得た批判となっている。それは前規制委員長へのブーメランにもなるが、真理は立場を超えて貫かれるということ。